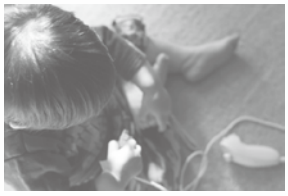
連載・青少年健全育成シリーズ　第252回

「子どもとメディアの問題」

テレビ・ビデオ、ゲームの長時間視聴の危険を知ろう



毎月第１日曜日は「家庭の日」
毎月第３日曜日は「青少年を育む日」です。
青少年育成都留市民会議編集委員

メディアとの長時間の接触が、心身の発達過程にある子ども達への悪影響が心配されています。

近年乳幼児の発達の専門家から、言葉の遅れ、表情が乏しい、親と視線を合わせないなどの症状を訴え受診する乳幼児の中に、テレビ・ビデオの長時間視聴を止めると、これらの症状が改善する事例が数多く報告されています。

最近はテレビ・ビデオの乳幼児への悪影響が認識され、小児科医や発達に関わる関係者はテレビの影響を保護者に伝えるように勧告しています。乳幼児の子守代わりにテレビを3時間以上見せる子どもの親は子どもへの虐待（育児放棄）と言う精神発達の専門家もいるくらい言語、情緒、身体発達（立体視など）への悪影響を及ぼすことがあります。

日本小児科医会では次のような具体的な提言をしています。

・2歳までのテレビ・ビデオ視聴は控えましょう。

・授乳中、食事中のテレビ・ビデオ視聴は止めましょう。

最近、保育園・幼稚園、小学校の先生方から聞くことですが、先生の話に集中できない、注意力を持続できない子どもが増えているそうです。

その原因の一つにテレビやゲームが考えられます。これらからは、刺激的な映像が次々と流れ興味をひきつける内容になっています。子ども達にとって、短時間でどんどん様変わりするコマーシャルは見ていて楽しいものなのでしょう。

子どもが喜ぶからと言って強い刺激を与えるテレビを長時間見せるのは良くありません。神経が麻痺したような状態になり、強い刺激や変化のあるものにのみ興味を示すようになり通常の会話に満足できなくなってしまいます。テレビの刺激的な楽しさに慣れ親しんだ子どもに、先生の話を聞くように言っても無理なのです。

脳への直接的な悪影響の事例として「ポケモン騒動」が有名です。

光過敏性素因（15人に一人いるといわれています。）を持った子どもは・赤色光の激しい点滅・薄暗い部屋・テレビの近くで集中し見ている・疲労・空腹状態にある悪条件だと光に反応してけんかん発作を起こすことがあります。

＊赤色光の激しい点滅は現在規制されています。

・すべてのメディアへの総時間は1日2時間までを目安とし、テレビゲームは1日30分以内にしましょう。

テレビやゲームが、すべていけないのではなく、時には楽しむことも良いと思いますが、長時間の視聴は身体的悪影響、情緒的な悪影響が強く、絶対させてはいけません。

広報「つる」広告募集！

あなたのお店の広告を広報つるに載せてみませんか？
広報「つる」は、市内の各家庭に配布されています（10,500部発行）ので、多くの方の目に触れます！

問合先：行政管理課　秘書広報担当

広告料金

掲載場所	印刷色	金額 / 枠	備考
裏面	カラー	20,000	2カ月掲載
内面	2色刷り	10,000	2カ月掲載

掲載月は、①1・2月②3・4月③5・6月④7・8月⑤9・10月⑥11・12月の6パターンとなります。
掲載状況につきましては、下記をご参考としてください。
また、詳細につきましては、ぜひお問い合わせください。

広　告　掲　載　欄

広　告　掲　載　欄